

WEEKLY SIGNAL

平成30年8月17日(金) 1437号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	8/20(月)	8/21(火)	8/22(水)	8/23(木)	8/24(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 500	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 8,100	+ 3,000	△ 12,000	ト ン	△ 6,000
資金需給	△ 7,600	+ 3,000	△ 12,000	△ 1,000	△ 7,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M・1Y)		国債発行(20年) 交付税特会借入・償還		
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,300 CP等買入 △ 400				被災地支援 △ 900
オペスタート	国債買入 + 6,600 共通担保(全店) + 1,100				
(日本)		7月のスーパーマーケット 売上高(前年比)	営業毎旬報告(8月20日現在) 日銀が保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額		7月の全国CPI
(海外)	米 アトランタ連銀総裁の講演		米 FOMC議事録 (7月31日、8月1日会合分) 米 中古住宅販売件数(7月)	米 カンザシティ連銀主催の 年次シンポジウム(ジャクソンホール、25日まで) 米 新築住宅販売件数(7月) 米 新規失業保険申請件数 (8月18日終了週) 米 FHFA住宅価格指数(6月) ユーロ圏 総合・製造業・サービス業PMI (8月、速報値) ユーロ圏 消費者信頼感指数 (8月、速報値)	米 カンザシティ連銀主催の 年次シンポジウム(ジャクソンホール、25日まで) 米 ハウエルFRB議長、 ジャクソンホールで講演 米 耐久財受注(7月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初384兆3,900億円から始まり、年金定時払いなど財政等要因を受けて、392兆3,200億円まで増加して越過した。無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.051%から始まった。その後も積み最終日まで△0.052~△0.051%の狭いレンジで推移した。新積み期に入ると調達意欲が弱まり、16・17日共に△0.067%となった。ターム物は1~2W物を中心に、△0.05~△0.03%で取引がみられた。8月14日に実施された国庫短期証券買入オペのオファー額は5,000億円で、前回オファー分(8月7日、オファー額2,500億円、応札倍率4.27倍)より2,500億円の増額となった。応札倍率は3.07倍となり、前回対比で低下する結果となった。来週の主な予定は、7月の全国CPI(24日)、海外ではカンザシティ連銀主催の年次シンポジウム(ジャクソンホール、23~25日まで)やパウエルFRB議長講演(ジャクソンホール、24日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.001 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は3,700億円弱で、週間償還総額の約3,700億円とほぼ同程度の発行となった。発行市場は、5・10日スタートではまとまった発行案件もあったものの、大型連休の影響を受けてやや閑散なマーケットとなった。週末の発行市場残高は19兆5,800億円弱と先週末(19兆5,037億円)を上回り、引き続き高水準を維持している。発行レートは、ほぼ横這い圏内の動きとなった。14日にCP等買入オペが2,000億円オファーされ、按分落札・平均レート共に△0.001%と、前回オペと横這いであった。来週の償還総額は、4,500億円程度となっている。夏季休暇明けで、企業の資金調達ニーズも強まり、償還比プラスが予想される。発行レートは、投資家ニーズが強く引き続き0%近辺での出合と思われる。

<TDB>

16日に行われた1Y777回債は、最高落札レート△0.1537%(前回債△0.1420%)、平均落札レート△0.1557%(同△0.1440%)と前回債より堅調な結果となった。17日に行われた3M778回債も最高落札レート△0.1563%(前回債△0.1543%)、平均落札レート△0.1643%(同△0.1635%)と前回債からマイナス幅を拡大した。週末のセカンダリー市場は、新発3M物は△0.157%近辺と足切水準での出合となった。

<レポ>

足許GCは週初△0.10%近辺から始まった。新積み期入りとなる16日受渡しは△0.10%台後半~半ばに大幅低下。週末は短国の発行が重なりレート上昇。△0.10%台前半が出合の中心となった。SC取引では10年351回債のbidが多く、15日の国債買入オペ後△0.30%台半ば~前半の出合。週後半は概ね△0.10%台後半~半ばで取引された。5年136回債は入札日前日まで△0.60%を超える出合が続いた。他2年389・390・391回債、5年134・135・136回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351回債、20年162・163・164・165回債、30年57・58・59回債、40年9・10・11回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。